



平成19年3月期

第1四半期財務・業績の概況（連結）

平成18年7月31日

上場会社名 日本製箔株式会社

（コード番号：5739 東証・大証2部）

（URL <http://www.nihonseihaku.co.jp>）

代表者 役職名 取締役社長 氏名 重村 郁雄

問合せ先責任者 役職名 取締役執行役員管理部長 氏名 中村 幸一 TEL：(03) 5212 1751

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

- 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
- ・税効果等については、一部簡便的な方法を採用しております。
 - ・その他影響額が僅少なものについては、一部簡便的な手続きによっております。
- 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無
- 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

2. 平成19年3月期第1四半期財務・業績の概況（平成18年4月1日～平成18年6月30日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況

（百万円未満切り捨て）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期（当期）純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19年3月期第1四半期	6,981	13.8	123	40.4	113	45.5	21	-
18年3月期第1四半期	6,137	1.7	207	20.4	207	13.5	63	68.5
（参考）18年3月期	26,091		525		535		34	

	1株当たり四半期 （当期）純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期 （当期）純利益
	円 銭	円 銭
19年3月期第1四半期	0.90	-
18年3月期第1四半期	2.65	-
（参考）18年3月期	1.43	-

（注）売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

当第1四半期は、アルミ地金等の原材料価格の高騰に伴う販売価格への転嫁が不十分でありましたが、特殊箔の堅調な需要に恵まれたため、売上高は前年同期比13.8%増加し、6,981百万円となり、損益においても、営業利益は123百万円、経常利益は113百万円を計上することができました。しかしながら税効果会計に伴う法人税等調整額がマイナスを計上した影響を吸収できず、当第1四半期は純損失21百万円を計上いたしました。

(2) 財政状態（連結）の変動状況

（百万円未満切り捨て）

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり 純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
19年3月期第1四半期	23,520	5,953	25.2	248.25
18年3月期第1四半期	22,287	6,038	27.1	251.74
(参考)18年3月期	22,980	6,054	26.3	252.45

【連結キャッシュ・フローの状況】

（百万円未満切り捨て）

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
19年3月期第1四半期	172	98	195	2,016
18年3月期第1四半期	333	44	170	1,132
(参考)18年3月期	1,340	699	962	2,091

[財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報等]

当第1四半期の総資産は前連結会計年度末と比較して539百万円増加し、23,520百万円となりました。これは受取手形及び売掛金、たな卸資産等の流動資産が増加したためです。負債合計は前連結会計年度末と比較して659百万円増加し、17,567百万円となりました。これは主として仕入債務が増加したためです。

また、第1四半期のキャッシュ・フローの状況につきましては、以下のとおりであります。

当第1四半期における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比較して、75百万円減少し、2,016百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動による資金の収支は、172百万円の支出となりました。これは、税金等調整前四半期純利益80百万円や、減価償却費89百万円、仕入債務の増加443百万円等の収入を計上しましたが、売上債権の増加421百万円、たな卸資産の増加293百万円、法人税等の支払額198百万円等の支出がこれを上回ったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動による資金の収支は、98百万円の支出となりました。これは、投資有価証券の取得による支出72百万円、有形固定資産の取得による支出26百万円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金の収支は、195百万円の収入となりました。これは主に、今後の金利上昇を考慮し、前倒しで資金調達したためであります。

3. 平成19年3月期の連結業績予想（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

[業績予想に関する定性的情報等]

当第1四半期の経常利益は平成18年5月9日公表の中間期連結業績予想に比べて高い値になっています。

これは特殊箔の堅調な需要によるものですが、第2四半期は特殊箔の需要が落ち込む見込みであり、中間期連結業績予想は変更いたしません。

なお、上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。